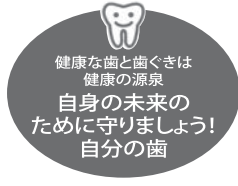


お口の相談室



80歳で20本。自分の歯でおいしく食べよう。 w-yuzodent.com



歯科医師 渡辺 雄三
新潟大学歯学部予防歯科卒業後、新潟県の無歯科医村へき地事業に11年間携わる。歯周病治療を中心として口腔の改善に努める。2005年5月、故郷・会津若松市石堂町に開業。1958年生まれ、山歩きが趣味。

糖尿病の克服は歯周病の治療から



鏡で見えるプラークは、虫歯と歯肉炎に関係しています。徹底的に歯をみがいても、数分のうちに唾液のなかの成分が歯の表面に膜を形成します。これを足場に口のなかのあちこちの粘膜にかくれた細菌たちがすぐに歯の表面にやっつけてきます。

この歯の表面にくっついたプラークの細菌のおもな栄養源は、わたしたちの食べものです。唾液中に含まれる糖タンパク質も細菌たちの栄養源になるのです。とくに糖尿病にかかっている人の唾液中には、大量のグルコースが含まれています。あの独特の甘い匂いのもとはです。ですから糖尿病の人の場合、砂糖をとらなくてもひどい虫

歯になることがあります。

歯肉には、歯のきわに1〜2ミリのミゾ（歯周ポケット）があります。歯肉に炎症が生じ、腫れると、腫れた分だけミゾは深くなります。そしてこの歯周ポケットからは、健康なとき以上に体液がしみ出してきます。この歯周ポケットのなかにもプラークが形成されていますが、この体液はここにすむ細菌の栄養源にもなります。

歯を支える組織が破壊されると、最終的には、歯の周りの骨が溶けて歯がグラグラになってしまいます。しかし、歯周炎を放つ

ておいても、自然に治るわけではありません。たとえば、毎日のお手入れを続けて、一年に一度チェックをすれば十分な人もいれば、一カ月に一度、専門家が徹底的にクリーニングしなければ、断ち切るう!

「糖尿病」と「歯周病」の悪循環



ば進行する危険があります。このことから歯周病の予防や治療において、その人その人のかかりやすさ、ひどくなりやすさを知ることが重要なことなのです。

糖尿病がある人は歯周病になりやすく重症化しやすい